よろこび

日蓮宗 顕聖会

本　山　妙圓寺
長音山　本要寺

『よろこび』三十六

貫首　齊藤　日軌

三月はお彼岸ですね彼岸の佛様の世界から本堂にご先祖をお迎えし、お施餓鬼供養をしましょう。近頃、葬儀、法要、先祖の供養を簡易に済ましてしまうことが多くなりがちですが、自分たち生きているものが幸せになりたければ、あの世のご先祖さんたちにご供養、成仏していただくことが大切です。仏様になった御先祖様こそ、私たちを守ってくださいます。先祖は大きな木の根、子孫はその枝になる果実です。先祖のご供養をして、私たちも豊に、幸福になりましょう。南無妙法蓮華経の祈りで、御先祖をお塔婆供養し、自分自身の心の調和、家庭の平和幸福も祈りましょう。

南無妙法蓮華経と唱えご先祖を供養し、私たちも幸せになろう。私たちの心の中のご先祖が幸せにならなければ、私たちも幸せでは、ありませんね。お墓、納骨堂にお参りし、お塔婆供養をしましょう。

みおしえ

「この世のものを不浄であると思いなして暮し、（眼などの）感官をよく抑制し、食事の節度を知り、信念あり、勤めはげむ者は、悪魔にうちひしがれない。――岩山が風にゆるがないように。（法句経八中村元訳）

インドのバーナラシーに、ヤサという大富豪の息子である青年がいました。

四季それぞれの屋敷に住み、侍女達にかしずかれ、女と、酒の日々です。

ある夜目覚めたヤサが辺りを見回すと、美しい舞を舞っている侍女達は、あられもない姿で眠っていました。―こんな生活ではいけない」ヤサは、屋敷を後にしました。

ヤサは、バーナラシー郊外の鹿野苑に、お釈迦様を訪ねました。ヤサは釈尊に自分の悩みを訴えました。

―私は欲しないものは何でも手には入り、多くの侍女にかしずかれ、なに不自由な日々を過ごしています。しかし気がつけばむなしさのみ。人間は病となり、老いて終いには死んでゆかねばなりません。死を思うと毎日が苦しみです。私はどうしたら良いしょうか。」

お釈迦様は青年の苦悩がかっての自分と同様であると知り、自らの弟子とし、永遠の命に至る道を説いたのです。すなわち、いのちの実相を知る中道の教えです。

心の言葉

南無妙法蓮華経と唱え中道に入り永遠の命を見つけよう